

－発表要旨・論文－

一般演題(3)

1. 内視鏡未経験者への教育

～処置習得進捗一覧表の作成の取り組みと今後の課題～

いづろ今村病院内視鏡センター 小松 知美

**【背景】**

当院の内視鏡センターのスタッフ数は看護師7名、臨床検査技師1名、看護補助者1名である。年間検査数は健診を中心に約8800件行っている。当内視鏡センターのスタッフの半数以上は育児休暇取得後の復帰者が配属された内視鏡未経験者である。2018年度から未経験者が4名配属され、治療や検査の介助の指導を行っていたが、各業務の手順書しかない状況であった。そのため、個人の処置の習得状況が把握出来ないことや、前回、指導を担当した者が不在の場合、どこまで指導したのか不明であること等、問題点が挙がっていた。

**【研究目的】**

処置習得進捗一覧表を作成したことで未経験者、指導者の双方にとって効果的な物であったかアンケート調査を実施し、指導方法の改訂につなげる。

**【対象】**

内視鏡センターに勤務する看護師7名臨床検査技師1名

**【方法】**

1. 期間2018年10月01日から2019年6月15日
2. 質問紙調査 処置習得進捗一覧表を使用した未経験者、指導者から回答を得る。

**【結果】**

(未経験者の回答) 処置習得進捗一覧表の作成前は処置の習得段階を把握出来ていなかったと100%が回答。処置習得進捗一覧表の作成後は処置の習得段階を把握出来たと100%が回答した。

(指導者の回答) 処置習得進捗一覧表の作成前は処置の習得段階を把握出来ていなかったと100%が回答。処置進捗一覧表の作成後は処置の習得段階を把握出来たと75.0%が回答し、把握出来ていなかったと25.0%が回答した。独り立ちのタイミングについては4回目で独り立ちしたという回答が62.5%で最も多く、指導者から独り立ちできると評価を得て独り

立ちしたと回答したのは37.5%であった。

### 【考察】

処置習得進捗一覧表を作成したことは未経験者・指導者双方にとって習得状況の把握が可視化されて有効であった。しかし、未経験者が見守りを含め4回目から不安を抱いて独り立ちしている現状が分かった。今後は、段階的な評価項目を設けて習得した技術の評価を実施し、個々の到達レベルに合わせて独り立ちのタイミングを考慮する必要がある。

### 【まとめ】

処置習得進捗一覧表は未経験者の習得状況が可視化され効果的であった。今後の課題として、多様で特殊な内視鏡処置を効率よく習得、また指導するには、段階的な評価項目を設けた評価表を順次作成して教育プログラムの充実を図っていく必要がある。さらに、未経験者は指導者からの評価のもと独り立ちする事とし、私たち内視鏡看護師は、安全で質の高い内視鏡検査治療の提供が出来るよう努めたい。

### 【倫理的配慮】

今村総合病院倫理審査委員会の承認を得た。